

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

《研究主題》

学習に向かう意識を高める指導法の工夫・改善
～「ぼくにもできた」から「そうだ、勉強しよう」へ～

研究主題実現の方針として、「基礎学力の定着」と「家庭学習の習慣化」を目指すために、下記の教育実践を行う。

- ① チャレンジノート（家庭学習ノート）とチャレンジカップ（一問一答基礎テスト）の実施
→ 学習実績のグラフ化（可視化）・成績優秀者の表彰を通じた自主学習のきっかけづくり
- ② 「授業マネジメント」と「基礎アップ」を意識した「授業公開」の実施
各教科ごとの「基礎学力の定義づけ」と「基礎学力定着・向上のための方策づくり」
→ 「よい授業アンケート」を活用した授業の工夫改善
- ③ 「大谷口中 授業がわかる 3つの約束」の掲示・実践
→ 授業規律を生徒・教職員がいつでも意識できる工夫

＜本年度の学力向上策＞

- ① 本年度も「チャレンジノート（家庭学習）とチャレンジカップ」を継続させ、「家庭学習の習慣化」を目指す。また、生徒の学習意欲や達成感・成就感を向上させるため、家庭学習の実績を可視化（グラフ等）し、年5回（3年生は3回）実施のチャレンジカップで成績優秀者を表彰して学習に対する内発的動機づけを行う。
- ② 「公開授業を見合う」ことを通し、「学習に向かう意識を高める授業」ができているのか、という「授業マネジメント」の観点から教科や学年の枠を超えてお互いの授業を見合い、参観した感想を授業者へフィードバックする。また、年2回実施の「よい授業アンケート」の結果を活用し、授業実践の工夫改善を行う。
- ③ 各教科における「基礎学力」とは何かを教科会で定義づけ、その基礎学力が定着・向上していくために必要な教科ごとの方策を考え、実践する。
- ④ 本校の実態として、3校の小学校から生徒が入学するため、毎年新入生の授業開始時にチャイム着席等の授業規律を整備して徹底させることが課題となる。大谷口地区の「小・中一貫教育」においても「時間を守る指導」が重点目標となっている。そのため、全教職員で話し合いを行って作成した『授業がわかる 3つの約束』を特別教室も含む全教室に継続して掲示し、生徒・教職員がいつでも授業規律を意識できる工夫を行う。

以上の取組における成果と課題を「令和元年度の学校評価の結果」と「市学習状況調査の結果」から考察する。

授業がわかる 3つの約束



準備・着席 チャイム前

<本年度の振り返り>

- ①「チャレンジノート（家庭学習）」の実績を可視化（グラフ等）し、年5回（3年生は3回）実施の「チャレンジカップ（基礎学力テスト）」で成績優秀者を表彰することにより、生徒の学習意欲や達成感・成就感を向上させることはできた。しかし、学校評価アンケートにおける「私（お子さん）は、家庭ですすんで予習や復習をしている」という項目に対する回答は生徒が57.0%・保護者が51.0%に止まっていることから、「家庭学習の習慣化」を実現することはできていないと捉えている。そのため、保護者会や学校だより等の各種お便りで、各家庭から家庭学習の協力を得られるように、情報を発信していくことが必要であると考えている。
- ②前期に実施した「よい授業アンケート」での結果を活用し、後期実施のアンケートでは「授業マネジメント」の項目について、全ての教職員の平均数値を上昇させることができた。（さいたま市の平均値16.8に対して、本校は17.3）また、学校評価アンケートにおける「先生はわかりやすい授業をしてくれている」という項目に対する生徒の回答は93.0%と高いものであった。しかし教職員同士で「公開授業を見合う」ことについては不十分であったため、今後も継続して「学習に向かう意識を高める授業」ができているのか、という観点から教科や学年の枠を超えてお互いの授業を見合い、授業実践の工夫改善を行いたいと考えている。
- ③各教科における「基礎学力とは何か」を教科会で定義づけ、その基礎学力が定着・向上していくために必要な方策を教科ごとに考え、実践することができた。特に、市教育委員会計画訪問Ⅰでは、各教科内で定義つけた基礎学力の定着・向上を図った授業実践になっているのか、という観点で授業研究を進めることができた。
- ④授業規律の意識を生徒・教職員が共に高められるよう、全教室に掲示した『授業がわかる 3つの約束』をもとに教育活動を実践することができた。学校評価アンケートにおける「先生は、皆が気持ちよく生活できるように、生活態度などについて指導してくれている」という項目に対する生徒の回答は94.0%と高いものであった。しかし、本校の実態として新入生の授業開始時におけるチャイム着席等の授業規律を整備することが課題となるため、今後も工夫・改善を行うことが必要である。

来年度における生徒の「基礎学力の定着」・「学習意欲の向上」を目指した学習の工夫改善策のひとつとして、タブレット端末を活用していきたいと考えている。情報を検索して発表資料に用いたり、基礎学力ドリルを使用して小テストを実施したりと、今後の学習において幅広い活用が期待できるため、教職員の「授業スキル」の向上も目指して取り組んでいきたいと考えている。